

GIFU・スマートフォンプロジェクト



平成24年2月
岐阜県商工労働部情報産業課



GIFU・スマートフォンプロジェクト

GIFU・スマートフォンプロジェクト

スマートフォン関連人材の 集積と起業促進

モバイルカフェ
の開催

異業種・
異分野の交流
及び連携促進

iPhone塾、
Android塾
の開催

全国初の
アプリ開発に
特化した研修

iPhoneフロア
の整備

ドリーム・コア
入居希望者
への優遇措置



スマートフォン全体を視野に入れた人材育成
(100人構想、岐阜県版アプリ)

スマートフォンを活用した地域振興

地域発の
スマートフォン
関連グッズの企画

プロジェクトのブランド化

スマートフォン
活用イベント等
の開催支援

観光誘客促進
要望のフィードバック



県施策との連動
(ぎふ清流国体・清流大会、子育て支援 等)

ベンチャーを中心とした
更なる企業の集積

スマートフォンアプリ開発の
一大拠点としての地位確立

新たなIT技術・交流による
新商品開発・経営基盤確立

産学官一体となった地方ならではの取組で産業、地域全体を底上げ

関係年表

年 月	iPhoneの状況	岐阜県での動き
2007年 6月	初代iPhoneアメリカで発売	
9月		・赤松教授 [IAMAS (県立国際情報科学芸術アカデミー)] が最初のアプリを発表、以後30種類以上を開発
2008年 4月		・ 赤松教授を中心にIAMAS内でiPhone勉強会スタート
7月	iPhone3G、日本を含む全世界で発売	
10月		・「FingerPiano」が世界的に大ヒット [勉強会参加者 和田純平氏] ・「頓智・機」「(株)FEYNMAN」のベンチャー2社がソフトピア進出
11月		・(財)ソフトピアがセミナー開催、iPhoneビレッジ構想発表
2009年 6月	iPhone3GS、日本を含む全世界で発売	
7月		・「ドリームコア・コレクティブ」(通称:モバイルコア) オープン ・NPO法人ドリームワークス (代表:村井智建氏) がiMac 8台、iPhone 55台分の維持費用を寄附 ・iPhone塾正式開講
9月		・頓智・機「セカイカメラ」の国内提供開始 ・第1回モバイルカフェ開催
10月		・高山で「iPhoneお散歩コース」開始
11月		・セカイカメラ、世界77カ国で提供開始
2010年 4月	iPad日本で発売	・赤松教授、和田氏ら3名が共同開発したiPad用アプリ3本が配信開始
6月	iPhone4、日本を含む全世界で発売	・iPhone塾受講生が開発した「おみくじアプリ」3種類がAppStoreで配信開始
7月		・「PadNote」が大人気となり、大手小売店「東急ハンズ」全18店舗で販売開始

プロジェクト開始までの経緯（岐阜県の財政状況）

投資先行型行政（ハコモノ行政）
→起債償還額の増加（財政の圧迫）

世界的な経済危機（リーマンショック）
→税収の激減

危機的な財政状況

- 事業の徹底見直し、大幅な縮小、事業丸ごと廃止 etc.
- 残るは自らの人件費、それさえも約15%カット

現場では、、、

「諦め」と「開き直り」（次の収穫に備えた種籾まで無くなる状況）

マイナスだけの不良資産ではなく、ユニークな財産という想い、意識

- ソフトピアジャパンという、地方にとっては巨大な資産
- IAMAS という世界的に見てもユニークな学校

プロジェクト開始までの経緯（プロジェクト開始、隆盛の要因）

要因1 緊急雇用特別基金事業の登場

- ◆雇用を確保することが事業の目標、成果
→ 手段は限定されておらず、**事業内容は知慮勝負!**
- ◆既存事業の置き換えではなく、将来の事業化を視野に

要因2 iPhoneの登場によるIT業界全体の激変期というタイミング

- ◆業界の先駆者であるIAMAS赤松教授の存在
- ◆先駆的ベンチャー企業の進出（頓智・、FEYNMAN）
- ◆大ヒット作「FingerPiano」開発者 和田氏など、カリスマ的成功者の存在

要因3 魅力的なビジネス環境の存在

- ◆ベンチャーに最適な環境（ドリーム・コア）

結果として人が集まる要素が集約

プロジェクトがもたらしたもの（行政と民間企業の関係の変化）

補助金を主体とした、上下関係を生み出す制度

行政からはサービス、公共事業を受けて当たり前



「入居してやる」、「いてやる」
「助成金は無いのか」
「サービスがなっていない」
「いつでも退居してやる」

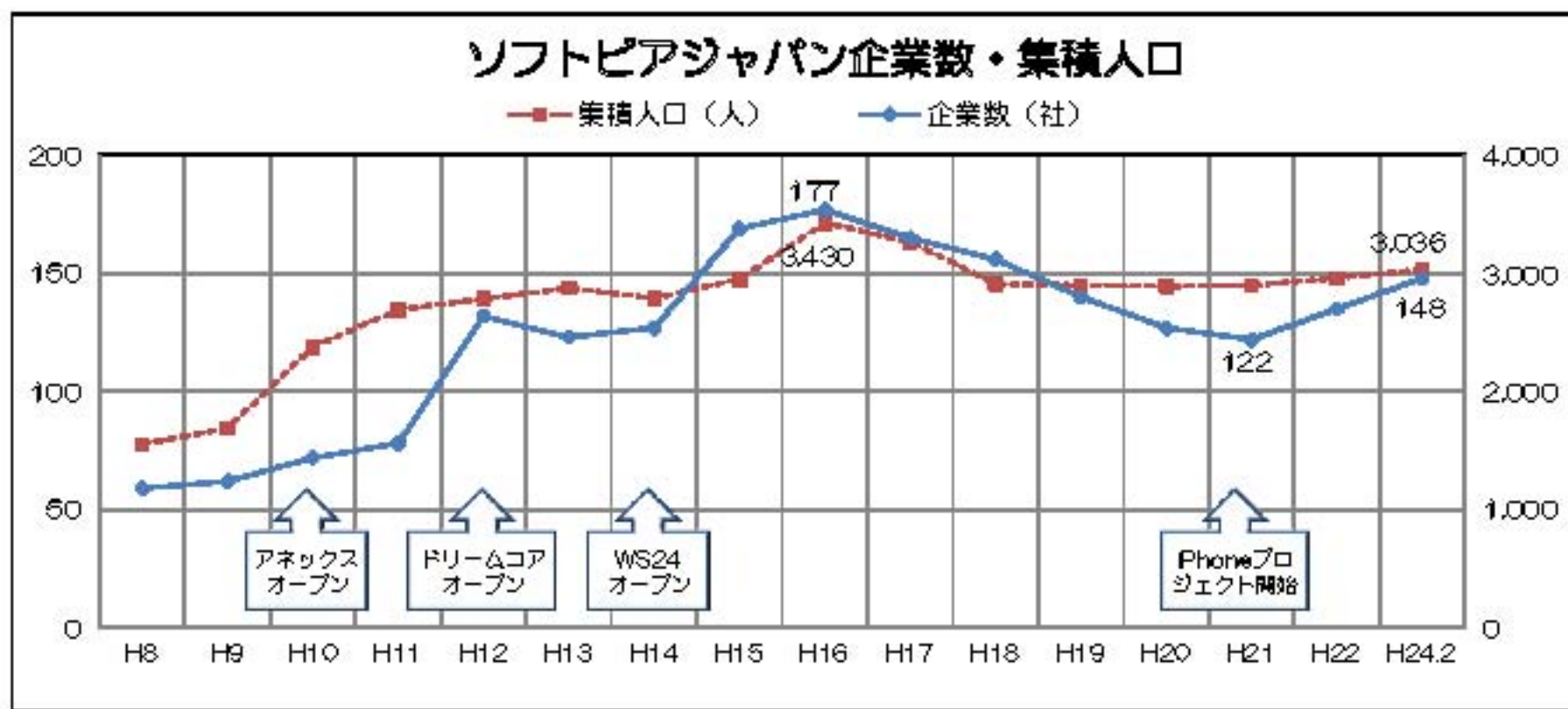
県にお金が無くなったことで、



行政マンは、走り回り、汗をかいて、
人と人の繋ぎに徹するしかない

上下関係ではなく、対等のパートナーであるという意識
一緒に地域を盛り上げようという風潮

入居企業数等の動向



■入居企業数、交流人口の拡大

GIFU・iPhoneプロジェクトをきっかけに徐々に企業数、集積人口が徐々に増加している。

さらに、H19.4から休業していた簡易宿泊施設「ソピア・キャビン」を緊急雇用創出事業臨時特例基金事業により再開。

今後、宿泊研修の実施などにより、訪問者を含む交流人口のさらなる拡大が見込まれる。

<参考>1泊2,000円（シングル/バス・トイレ共同）～



ソフトピアジャパンについて

ソフトピアジャパンプロジェクトとは、

今から約20年前に高度情報化社会の到来を予測し、

- ①情報産業を育成、振興、集積する中核拠点 「ソフトピアジャパン」
- ②高度IT人材育成の拠点 「IAMAS（イアマス：専修学校と大学院大学の総称）」

の2つの拠点を活用して、産業、教育、福祉等あらゆる分野が情報化された「暮らしよい岐阜県」の実現を目指した本県の地域情報化推進政策。

ソフトピアジャパン



IAMAS



ソフトピアジャパンプロジェクトの歴史

1985年 「大垣地域産業ビジョン“TEAM21 構想”」策定（大垣商工会議所）

「既存産業が、高度情報化時代に対応した体質改善をはかり、大垣地域が、高度情報産業都市形成をはかる拠点として、コンピュータ企業団地を建設する。」

1988年 「岐阜県大垣ソフトパーク建設基本構想」

1989年 「ソフトピアジャパン建設推進協議会」発足

1990年 「ソフトピアジャパンマスタープラン」策定

1994年 財団法人ソフトピアジャパン設立
※ソフトピアジャパンプロジェクトを推進する公益法人（県100%出資）

1996年 **ソフトピアジャパン センタービル オープン**
IAMAS（国際情報科学芸術アカデミー）開学

1998年 ソフトピアジャパン アネックス オープン

2000年 ソフトピアジャパン ドリーム・コア オープン

2001年 IAMAS（情報科学芸術大学院大学）開学

2002年 ソフトピアジャパン ワークショップ24 オープン

＜大垣地域の企業群＞

イビデン
日本耐酸塩工業
太平洋工業
西濃運輸
大垣共立銀行
セリア
ユタカファーマシー
等

ソフトピアジャパン エリア全景



ソフトピアジャパンへのアクセス



東京から約3時間

- 東京駅→名古屋駅 約1時間40分（東海道新幹線）
- 名古屋駅→大垣駅 約30分（東海道本線）
- 大垣駅→ソフトピアジャパン 約8分（タクシー）